

# みんなで ともに 乗り越えよう

## 大柿ダムの放射性セシウム調査 結果のお知らせ

東北農政局は、平成24～25年にかけて浪江町の大柿ダムで放射性セシウムの調査を実施しました。その結果は以下の通りです。

### (1) 水質について

- ダム湖の平水時は、放射性セシウム濃度が検出下限値※1未満でした。
- 台風等の大雨時は、ダム湖に流入する濁水から高い放射性セシウムが一時的に検出されましたが、ダム湖内での沈殿により、取水設備から取水した水の検出値は流入水の3%以下でした。  
(流入水810Bq/L、取水後の水18Bq/L。いずれも平成25年9月15日の台風18号の時)
- 平水時、台風等の大雨時とも、稲が吸収しやすい溶存態セシウム※2は検出下限値未満でした。

### (2) 底質（湖底の堆積土）について

- ダム湖底の堆積土の表層部（表層10センチ）の放射性セシウム濃度は、1キログラムあたり約3千～32万ベクレルでした。ダム湖内の下流側で比較的高い傾向にありました。

台風等の大雨時に、放射性セシウムを含む濁水の取水を極力避けるため、濁度のリアルタイム監視による取水制御や、ダム湖内で濁水の沈殿を促進する汚濁防止フェンスの設置を検討しています。



※1 検出下限値は、セシウム134とセシウム137各々1リットルあたり1ベクレル、合計2ベクレルです。

※2 溶存態セシウムとは、水の中に溶けた状態で存在する放射性セシウムのこと。作物の茎や根から直接吸収されます。これに対し、土中に含まれる懸濁態セシウムは茎や根から直接吸収されることはありません。大雨時等の濁水では、懸濁態セシウムにより濃度が上昇することがありますが、一時的なものです。

詳しくは東北農政局のホームページへ

[www.maff.go.jp/tohoku/osirase/higai\\_taisaku/housyaseibusitu\\_tyousa.html](http://www.maff.go.jp/tohoku/osirase/higai_taisaku/housyaseibusitu_tyousa.html)

浪江町を復興していくためには、町民の生活再建・健康管理、インフラの復旧、将来に向けたまちづくり、賠償問題、絆の維持など多くの課題があります。

その中で、町がどのような取り組みをしているのかをお知らせします。

## 「第3回事業再開検討委員会」が 開催されました

10月23日、第3回事業再開検討委員会が開催され、第2回に引き続き、再開を果たした会員事業者からの事例発表が行われました。

その他、浪江町商工会員で金融機関のあぶくま信用金庫浪江支店より「相馬郡の商工業の現状と課題」という演題での報告と、吉田栄光県議会議員より「商工業者への福島県の支援策について」という演題で、双葉郡および浪江町復興のために必要なこと、そのうえでの事業者の重要性に触れながらの講演がありました。

今後は、今回までに出た事業再開上の課題や、復興を取り巻く現状を、浪江町内と避難先（町外）に分けて整理をするとともに、次回以降も、町内や町外の復興に関する動きについて情報共有をしながら、事業再開の活性化に向けた検討を進めていく予定です。

問 産業・賠償対策課商工労働係  
TEL 0243(62)1106

なみえの

# あの店この店

ふるさとを離れ、ふるさとを思いながら避難先であらたにスタートした企業・店舗の皆さんを応援してください。

\*掲載ご希望の企業・店舗の方は、ご連絡ください\*

井戸川石材店

井戸川貴一

〒318-0034

茨城県高萩市高萩1514-2

TEL 0293(44)3651 FAX 0293(44)3652

問 復興推進課情報統計係 TEL 0243(62)4731

# 町の農業・水産業 再生に向けて

## 浪江産米の放射性物質検査の結果は…

町内で震災後初めて行われた実証栽培で、10月に収穫された米について放射性物質の全量全袋検査を行いました。その結果

は左表の通りで、全ての米が基準値（100ベクレル以下）より大幅に低い値となりました。また、今回の水稲実証栽培では予想以上の収穫量があり、一等米の割合も高かったことから、稲の生育は順調であったこと、

## ◇浪江産米の放射性物質検査結果

	コシヒカリ	天のつば
25Bq未満	120	106
25～50Bq	(※) 1	0
51～75Bq	0	0
計	121	106

※交差汚染米処理直後の検査袋（最初のくず米）



全量全袋検査の様子



検査結果は基準値以下 (PASS)

除染後の農地で安全な米が生産できたことが証明されました。

## 請戸漁港の復旧状況 をお知らせします

請戸漁港は徐々に復旧が進められています。破壊した東防波堤は閉め切り、復旧工用の砂利を搬入して、消波ブロック1,000個を設置しました。こうした復旧作業の前提として想定している漁業規模は、漁船数おおむね30隻、将来は50隻程度です（既存漁船数および具体的な漁業再開計画を持つている方の人数を想定し算出）。また、現時点における施設の設計計画は、次のとおりです。

- 荷捌施設…既存施設を取り壊し、同じ敷地上で新荷捌場を建設することが望ましく、高度衛生管理型施設を検討中。
- 管理事務所…営業部門は荷捌施設の2階に配置し、管理室、会議室、調理実習室を設けることを計画中。
- 漁具倉庫…当面はコンテナを利用した仮設漁具倉庫を設置。建設する漁具倉庫は、1区画あたりの面積を大きくする予定。
- 貯氷施設…氷は旧施設と同様に角氷を買い付けて貯氷庫に保管し、販売することを計画中。
- 上架施設…将来的に旧港を埋め立て、漁船の船揚場、レールやウインチ等を備えた施設の建設を計画中。
- 取り付け道路…取り付け道路は、南端と中央部に設置予定。一步一步復旧を進め、地元の漁業者が請戸漁港に船を係留できるよう、引続き相馬港湾事務所、相馬双葉漁協、請戸支所、マリノフォーラム21との協議を進めていきます。



## 新たな漁法（底建網） を検討しています

現在、新たな漁法の検討するため底建網検討委員会を立ち上げ、青壮年部を中心に底建網の実現可能性を模索しています。底建網漁業は海底に網を固定して行う漁業で、垣網と溜まりの部分があり、魚が垣網に誘導され溜まりの部分で出られなくなります。底魚を狙う漁業でヒラメ、カレイ類の選別と活魚出荷が容易になります。

産業・賠償対策課農林水産係  
TEL 0243 (62) 1107